

高齢者は体のさまざまな部分に加齢性変化が現れており、眼科的にも色々な病気が発症します。その病状によっては、手術が必要になる場合もありますが、この際、全身の加齢的变化で問題になるのは認知症です。眼科の手術は局所麻酔で顕微鏡を使って行うことがほとんどで、患者さんに静止してもらった必要があります。高度の認知症になると、それが不可能になるため、全身麻酔での手術が必要になります。そうなるまで全身に負担がかかるため、可能な限り局所麻酔で手術を行う方が良いでしょう。そのためにも病気の早期発見・早期治療が重要になります。認知症患者さんの御家族の方も、患者さんの見え方が普段と変わっていないか、行動を見て注意深く観察することが必要です。

それでは、以下にそれぞれの疾患について個々に説明します。

・白内障

白内障とは、眼球の中の水晶体というレンズがにごる病気で、初期は「もや」がかかったように見えたり、まぶしさを感じたりします。病状が進んでくると霧の中のように見え方が悪くなり、日常生活に支障を来します。

白内障は60歳以上なら多かれ少なかれ誰でもあるものです。年齢とともに少しずつ進んでいきます。

治療法は、目薬と手術ですが、目薬は進行を遅くするだけで、白内障自体

を取り除くことは出来ません。病状が、ある程度進んで、日常生活に支障を来した場合、手術が必要となります。その方法は、「こり」を取って、替わりとなる人工のプラスチックでできた「眼内レンズ」を入れます。最近では、技術の進歩により、傷口も小さく、たいていの場合は入院しなくても手術が可能になりました。

・緑内障

緑内障とは、視神経が障害され、視野が少しずつ欠けていく病気です。40歳以上の30人に1人と多数の方がかかっているといわれていますが、そのうち9割の人が気付かず無治療といわれています。初期には視野欠損の自覚がなく、自覚症状が出たときには末期ということが多い病気です。初期のうちに見るためには、人間ドックなどで眼底検査をすることが重要です。

治療法は、まず目薬で眼圧を下げて、視野欠損の進行を食い止めます。進行が止まらない場合は、手術で強制的に眼圧を下げますが、最近では、よく効く目薬が出ていますので、手術が必要になる事は少なくなりました。

どの治療法も病状を改善するのではなく、進行を止めるだけなので、早期発見と、自覚症状がなくても継続治療が重要となります。

・加齢黄斑変性

目のフィルムに当たる網膜の中心に

ある一番大事な部分を黄斑部といいます。ここに良くない血管などが生えて、だんだん傷んでしまう病気を加齢黄斑変性といいます。最初に起こる症状は「ゆがんで見える」事で、進むと中心が見えなくなりますが、光も分からなくなるほど見え方が落ちる事はまれですが、進んでしまうと読み書きが出来ないくらいには視力が落ちます。欧米では読み書きが出来なくなる原因の第1位を占め、近年我が国でも、患者さんが増えています。10年くらい前までは有効な治療法がほとんどなく、経過観察をすることが多かったのですが、最近では眼球の中に特殊な薬を注射する事により、治療できるようになりました。しかし、進んでしまうと注射の治療では追い付かなくなるので、早期治療が重要です。

・結膜弛緩症

白目の部分は硬い強膜と、その上に薄いベール状の結膜の二重構造となっていて、その結膜が年齢とともに、たるんでしまうことを結膜弛緩症と言います。

症状は異物感で、軽いうちは様子を見ていけば良いですが、異物感が強くなってきたら手術が必要になることもあります。

その他、色々な病気が起こりますが、何か症状がある場合、治療できることも多いので、年のせいと諦めないで、早めの受診をお勧めします。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
6	5	志木	岩崎小児科医院	小・内・皮	474-7474	新座	遠山荘一郎内科クリニック	内	480-3737
	12	朝霞	新谷医院	内・消内・呼内・循内	461-3238	新座	清水医院	内・外・循内・皮	476-2111
	19	新座	大塚産婦人科医院	産婦・小	479-7802	志木	志木北口クリニック	心内・精・神	471-2661
	26	新座	平山クリニック	内・小・アレ	480-0248	新座	永弘クリニック	泌・内・外	474-3708



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。